

近藤 さえ子の小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声
一本の小枝で結ぶ地域の世代
一本の小枝が渡す地域と区政

No.27 2016年1月発行



2016年新しい年が始まりました。昨年の選挙法改正により、今夏の参議院選挙から18歳以上が投票できるようになりました。「政治の世界なんて自分には関係ない」「政治は難しくてわからない」という意見も耳にしますが、主権者になるということは、「自分の未来を自分で考え、選択することができる」ということです。若者が、自分たちの明日を考え、行動し、実現していくチャンスなのです。

中野区では今、中野駅前の大ホールの建設、平和の森公園の総合スポーツ施設建設、西武線沿線の新たなまちづくり等、各所で大規模開発計画が次々進んでいます。

先日、現在策定中の「新しい中野をつくる10か年計画(第3次)(素案)」の区民説明会が地元であり、平和の森公園の体育館建設に反対する意見、保育園の問題、ごみの問題、小学校の環境の問題など、参加した区民と区職員との活発な話し合いが行われました。区は随時このような説明会を用意しています。

また、議会の傍聴は誰でもできます。

大人は、「子どもたちの未来に、どんな中野区を残すのか」と考えますが、若い皆さんは「どのような将来を考えるのか」「自分はどんな街に住みたいのか」、身近な社会や政治に参加し、考え、発言し、選択してください。

皆様にとって良い年となることを願ってやみません。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



❁いま中野区は!❁

「平和の森公園」

スポーツ施設ありき? 区民にとって住みよいまちとは?

新井3丁目にある「平和の森公園」(面積約 55,000m²)は、中野刑務所跡地を平和と緑の公園にしたいと願う区民の運動により、緑の広場と災害時の避難場所として昭和60年開園しました。中野刑務所は、戦時中の治安維持法に抵触した政治犯や思想犯を主に収容していたことから、敢えて「平和」を訴え、広島の実験場で作った平和記念碑も設置され、多くの区民のスポーツと憩いの場として利用されています。

区は、この公園内に新体育館を建設、屋外スポーツ施設も整備し、幅広いスポーツ振興の中心的な場所にしたいと検討しています。「緑豊かな公園をそのまま残したい」と強い思いを持つ区民からの陳情が議会に7本提出されましたが(12月10日本会議)、賛成少数で不採択となりました。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機に、スポーツ振興・施設整備、および区民の健康づくり・スポーツ活動推進が最重要であると区は施策を進めていきます。もちろんスポーツの持つ力ははかりしませんが、先人たちが築いてきた「平和」「緑」「誰もが使える公園」というキーワードも大事にしたいと私は思います。

オリンピックの後にどんな街を残すのか、皆さんはどのように考えられますか。

建設委員会より

まち全体がイベント空間? 区民にはどんな恩恵が?

中野区は「(仮称)中野区グローバル都市戦略」をまとめ、国家戦略特別区域の指定によるビジネスチャンスの拡大、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたインバウンド増加等の機会を生かし、活力あるグローバルな都市づくりを進める戦略を策定しています。その戦略とは、「『中野らしさ』をより効果的に発信するとともに、世界的なイベントや国際会議等の誘致、滞在空間の確保など、(中略)数倍の集客力と発信力の強化に向け、活動基盤の整備や推進体制を構築して行きます」。また、『目標とする都市像』では、「毎週1万人規模の催事によって、来街者を50万人増加、大規模な集客交流施設、商店街、道路、公園などが多目的に活用され、まち全体がイベント空間となっている」と言います。

私はこの報告に対し「中野駅周辺は、今もイベントで賑わっているが、さらにイベントで大規模に集客することで、区民にどのようなメリットがあるのか」と質問しました。区側の答えは「区民はイベントが見られる」と言う内容でした。

区民の皆さんの考える『中野らしさ』『都市像』はどのようなものでしょうか。



<http://saekonikki.exblog.jp/>



日々の活動をお知らせしています。

11月5日 島根県被害者支援連絡協議会

島根県松江市で行われた島根県被害者支援連絡協議会主催の講演会に講師として出席しました。

島根県では島根県警察本部広報課が中心となり、被害者支援に力を入れて取り組んでいます。「自治体の被害者支援窓口」に詳しく、被害者ノート制作に関わっている近藤さえ子氏を講演に呼ぶことで、自治体の被害者支援が進んでいくことを視野に入れて人選した」と言うことで、大変有難く思いました。

会場になっている島根県職員会館には「被害者支援のための自動販売機」が設置されています。このような自動販売機が県内に84か所設置され、売り上げの20%が被害者支援団体に寄付されると言うことです。

10月30日 子ども会 ビニールアート ハロウィーン

今年も子ども会主催でハロウィーンのお祭りを催しました。

昨年、子どもたちに作る楽しさを体験させ、お金をかけずにみんなが楽しめる行事を目指し、ごみ袋で手作りビニールアートのハロウィーンを行ったところ、子どもたちや保護者から大変好評でした。

今年「不思議の国のアリス」のキャラクターの仮装です。仮装した子どもたちは、商店街の方からお菓子をもらい、街を行く人たちから「可愛いわ」「すごいわね」と声を掛けていただき、大満足の様子でした。



第3回定例会

一般質問 2015年9月14日

東京オリンピック・パラリンピックと人権施策について

都知事は「2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、社会の隅々まで人権尊重をより一層浸透させるまたとない機会」と述べ、都は人権施策推進指針の見直しも15年ぶりに行った。

子どもや高齢者に対する虐待、いじめの問題、職場での様々なハラスメント、人種差別等の人権問題、インターネット上での誹謗中傷、ヘイトスピーチの問題など、複雑多様化している人権問題は私たちの生活の中に多く存在する。

- ① 区として、人権施策推進のため、どのような取り組みをしていくのか。
- ② 「学校で現代の社会における人権問題を教える」等、「人権教育を進める」が都のアンケート調査でトップだったが、区の取り組みは。
- ③ 人権を尊重した「誰もが住みたいまち中野区」を区の目標に考えてはどうか。

区長答弁 今後も、多文化共生社会の形成が進むよう、人権施策を見直しを行きたい。区の取り組みには、障がい者スポーツの認知度向上、国際理解教育の充実、異文化理解の充実等が盛り込まれている。

教育長答弁 東京都人権施策推進指針の改定を踏まえ、学校は人権課題について取り組んでいく。

認知症対策について

私は、過去2度にわたり認知症対策について質問をし、他区に比較して認知症コーディネーターや認知症地域支援推進員等が少ないことから、認知症コーディネーターの配置を求めてきた。

認知症の早期発見、早期治療のためには、認知症地域支援推進員等の人員の配置が必要であり、認知症予防に向けた区民講座等も必要ではないか。

区長答弁 体制整備について適宜適切に対応する方針に変わりはない。幅広い介護予防事業の拡充と合わせ、区民への周知を行いたい。



建設委員会視察 大阪府茨木市立命館いばらきフューチャープラザ内(市街地整備事業・市民も利用できる大学図書館)



第4回定例会

一般質問 2015年11月30日

スポーツ・健康都市戦略「健康アクティブ中野」について

「スポーツ・健康づくりで活力のみなぎるまち」「健康的な暮らしを実現するまち」と言う具体的な計画が見えない。

上越市では、健診推進、実態把握、データや医療費の集約・分析、市民への結果説明と保健師の働き、この一連の流れで、医療費および介護保険費の大幅な削減を実践した。区でも様々な健康教室が行うが、健康アップ・健康維持の観点から、事業効果をどのように高めるのか。

上越市は、具体的な政策目標の実現のためにプロジェクトチームを組織、関係所管の「連携」ではなく「役割分担」を明確化した。区でも、新たな推進体制を検討する必要があると考える。現在は、介護保険や健康づくりの担当部署が、さらに分化し、それぞれ事業を行うが成果を図れない。横断的なアプローチができる組織体制を築いて頂きたい。

また、すこやか福祉センターの保健師は専門性が十分に生かせていない。保健師等プロがプロとして仕事ができる環境の整備体制が必要である。

区民の実態を把握し、根拠のある施策を作る必要があるが、上越市等先進自治体を参考に、区はどのように取り組むのか。

総括質疑 2015年9月25日

職員2000人体制について

近藤 後期高齢者医療窓口を民間に委託した効果は。

区民サービス管理部副参事(保険医療担当) 後期高齢者医療と介護保険の業務を同一事業者へ委託し、高齢者総合窓口を開設した。

近藤 内部事務事業は、守秘義務を課した管理体制で行われれば、財政効果も大きく、サービスも向上する。どのように進めるのか。

政策室副参事(業務改善担当) 財政的な効果などを分析して民間活用を進める。

近藤 児童館は既に8館が廃止、今後11館が廃止予定。これまで地域の児童館が担ってきた異世代交流や子育てネットワーク構築を区民はどのように進めれば良いと考えるか。

北部すこやか福祉センター副参事(地域子ども施設調整担当) 新しく地域活動支援の場として子育て支援のための拠点を配置する。

近藤 今後はすこやか福祉センターが子育て支援の役目も担うということだが、福祉系職員は、この10年で250人も減っている。今後、行政、事業者、地域を結ぶ福祉職の育成と増員が必要と考える。

経営室副参事(人事担当) 今後、行政需要に応じた職員体制を構築したい。

中野区スポーツ・コミュニティプラザ

近藤 (仮称)南部スポーツ・コミュニティプラザは工事費10億円かかっているが、地域に密着した形で運営できる運営者はいるのか。

健康福祉部副参事(地域スポーツ推進担当) 十分に検討していく。

近藤 中部施設は、箱物ではできたものの地域の機運は高まらず、優秀なクラブマネージャー起用で何とか運営している。南部施設も、中部施設の成果を生かしてもらいたい。

健康福祉部副参事(地域スポーツ推進担当) 中部施設との連携も視野に入れ、区民に親しまれる施設としたい。

近藤 箱物を造る前に、まずスポーツクラブの必要性を区民に問うべき。これ以上、施設建設・管理に税金を投入することなく、現在の体育館等の活用も考えるべきだと思うが。

健康福祉部副参事(地域スポーツ推進担当) 身近な生活圏域で健康づくり・スポーツ活動ができる環境が必要である。



区長答弁 健診結果や医療費データの分析等を元に意見交換を重ねている。今後、実施体制や手法について検討したい。健康アクティブ中野を実行するために、4つの政策体系で施策を検討している。

すこやか福祉センターの保健師は、子育て支援や、障がい者・高齢者対応の他、感染症予防、健康づくり、介護予防などに取り組んでいる。

他の自治体の先進事例を参考にし、区民の健康づくりに向けた取り組みを一層進めていきたい。

近藤さえ子 再質問 区の健康づくり、医療費の削減は喫緊の課題であり、役割分担を明確にした推進体制を作って行かなくては、医療費の削減は可能ではないと考える。

区長答弁 健康づくりも重要だが、他にも重要な区政課題があり、1つ1つに正式な組織以外にプロジェクトチームを作れば、組織が複雑で何が何だかわけがわからないことになってしまう。10か年計画や年度計画・目標に添って努力していく。

こえだ 小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(4期) 趣味:テニス

こえだ 近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所
TEL & FAX 03-3330-9584
E-mail saekokondo@mbh.nifty.com